

### 若松港で組織された 仲仕請負業者組合

#### 綱領は労資協調

若松港で吞吐する石炭は年額七億七千万に達し、其の積込み下ろしに従事する石炭仲仕の数は三千名を下らない有様であるが此仲仕は全部市内各請負業者に

隷屬してゐるので恰かも請負業者は在労働者の代表者たるの観があり石炭商と共に若松港内に於いて最も重要な地位を占めてゐる然るに石炭商は完全な組合が組織されて居るにも拘らず請負業者には統一された何卒の機構もないので請負業者の賃値値上値下も仲仕の便宜を考慮する場合又は各石炭商と打合の際統一を缺ぐの不便があり一方石炭商組合にて種々の交渉を要する場合は請負業者側々別々に交渉するが如き弊害な手廻きを要する又警察署に於ても仲仕業者に對する傳染病預防とか其他の警察官等の場合に甚しく困難を感じ仲仕請負業者の團體組織を

#### 氣運

は近來餘程濃厚とな

### 柳河地方の 工業状態

#### 女工本位で 欠勤が多い

筑後柳河地方に於ける工業状態を調査して歸任した福岡縣工業監督官小山十一郎氏の歸來談に曰く

柳河地方で工場法の適用を受けて居る工場は三十を数へるが一昨午開設したつちも是度工場を明治初年からの設立に係る授産場を除けば何れも小規模なものばかりである従業工は總べて七百十九名と爲つて居たが昨今では八百三十名に増加して居る内製糖工場が十三であるが之は紡績の落綿を供つて蒲團の心として仕上げるもので主として大船四、宮永、三橋等何れも農村の兼業を爲つて居る所といふ有様であるから

**田植時期** なごには當然休業して居る、一般労働は低く綿耕等も比較的長く且つ落綿を原料に使用するので若蒲團が二個八十錢、さいふやうな廉價なものが平均五六圓から十圓位なものである之れが主として行商人などの手に渡つて九州各地に販賣されるが年額三千萬圓に達するさうである、瓦一棟瓦工も四ヶ所あるが何れも河岸に建てられて居る、之は燃料の運搬や製品の搬出並に原料を得る

にも利便がある爲である仕向地は九州各縣に及んで居るが特に大牟田や熊本に向く様である外に柳河工場も二ヶ所ある授産場は明治維新に際して柳河藩士に授けられた秩縣公債を基本として成立したので綿織羽二重、高貴織等の絹織物を注文に應じて設立して居るが同社は財団法人組織で利益があれは資本金に繰入れて行くので今や七萬圓の資本金有して居るに達された、機械力を使用する履物工場が一つ所あるが同所では杉材が日田郡から其他は東北地方から取寄せて居るが機械力で荒作りして仕上げは手工に待つて居る製品は漆上げなごしない儘で宮崎鹿兒島等へ向けて居る製糖株式會社では酸や貝類など水産物の罐詰を手廣く營んで居るが之の罐詰は主として亞米利加に輸出されて居る輸送工場では外國の碎米を原料にして居るが内地の碎米よりは

**遙に高率** たさうである、柳河地方の工場を北九州方面に比すれば全く女工本位といつてよく夫れに欠勤が多い爲め常に所要の二割以上餘分に職工を雇つて置いて強に不足無きを従て居る之れは農事の關係もあつて管一俵工場の稼取が如何にして管一俵が窮はれる」云々